

杉並支部の
事業より

◆ 9月4日(火)
〜11月9日(金) 3級簿記講座の開催
恒例の日商簿記3級講座今年も60人近い参加者が、11月18日の試験合格を目標に、合計20回の講義を受講。

◆ 9月27日(木) NTTドコモR&Dセンター及び原子力燃料製造工場視察会
(情報産業分科会)
横須賀市内の先進施設の視察、原子力発電の燃料棒の製作過程や、未来のユビキタス社会のバーチャル展示を体験。

◆ 10月17日(水) 会員懇談会・特別講演会の開催
懇談会では評議員を選出任期本年11月から3年間。講演会は講師に茶屋二郎氏作家。元パンダイ社長の山科誠氏を迎え、若き日の渋沢栄一のテーマのもと日本の産業・経済界の黎明期について学ぶ。

NEXT
杉並支部レター第5号は2008年5月発行予定。特集は井草ブロックとなります。お楽しみに！

荻窪に住んで45年、今ではすっかり荻窪の人に なったという斎藤さん。今年3月、当時は息子さんたちがよく魚釣りをしていたという弁天池の跡地に、天沼弁天池公園がオープンしました。「教会通りを通して公園に行っていただけ、商店街の良さを知ってもらえれば」と目を輝かせます。趣味は水泳で、30年続けているのだそう。水泳で鍛えた体力で、荻窪もあちこち歩いて回ります。そんな時も「どうしても他の商店街や店舗が気になっちゃうんですよね」と笑う斎藤さん。お話の随所に、わが街、わが商店街への深い愛情が感じられました。

「年々、けやき並木が良くなっている気がする」と言うのは区議として16年間、中杉通りと付き合った中島さん。自宅近くの善福寺公園も、四季折々の自然とカワセミなど美しい鳥に出会える好きな場所だそう。杉並の緑を保つには、行政が動くだけではなく、区民一人ひとりの心配りが大切と語ります。そんな中島さんの目下の趣味は仏像彫刻。一度彫り出すと数時間は集中できるそう。顔を彫るのが一番難しいとのこと、見せていただいた作品は、厳しさの中にも優しさが窺える、中島さんのお人柄を思わせる顔立ちが印象的でした。

ワッショイノ・ワッショイノ
荻窪名物・女みこし

荻窪白山神社の例大祭で恒例となっているのが「女みこし」。毎年100名あまりの女性が集まり、華やかに荻窪の街を練り歩きます。来年はちょうど30周年となる節目の年。毎年9月7日と開催日が決まっているため平日の都合は会社勤めの方が参加できないこともあるそうですが、来年はちょうど日曜日。初めての人でも気軽に参加できるのが特長で、衣装もすべて無料で貸し出し。地元企業の東信水産(株)が、地域貢献の一環として、全社を挙げてお祭りに協力し、女みこしの事務局も務めています。これを読まれた女性の皆さん来年はぜひ参加して

合は会社勤めの方が参加できないこともあるそうですが、来年はちょうど日曜日。初めての人でも気軽に参加できるのが特長で、衣装もすべて無料で貸し出し。地元企業の東信水産(株)が、地域貢献の一環として、全社を挙げてお祭りに協力し、女みこしの事務局も務めています。これを読まれた女性の皆さん来年はぜひ参加して

みてはいかがでしょうか？

住み良い街づくり目指し
「荻窪音楽祭」を開催

2000年よりスタートし、今ではすっかり荻窪の名物として定着した「荻窪音楽祭」。毎年春秋2回行われ、今秋も11月16〜18日に第16回が開催されます。音楽祭企画委員長を務める中山弘さんにお話を伺いました。

中央線沿線の大半が高架駅であるのに対し、荻窪駅は未だ地上駅のまま。このため荻窪は南北が分断され、特にベビーカーや高齢者などの行き来が困難な状況です。これを解消しようと、1996年に発足したのが「21世紀の荻窪を考える会」。駅の重層化というハード面の整備について提言を重ねましたが、大規模な工事を要するため相当の年月がかかる、それならば、まずはソフト事業として、この活動を住民に訴える街づくりイベントをしていこう、と始めたのがこの音楽祭なのだそうです。

もともと荻窪には、日本フィルハーモニー交響楽団が活動拠点を置く杉並公会堂があることなどからクラシックとの結びつきは自然な流れ。昨年6月に改築された公会堂は音楽祭でもメイン会場として使われ、今回も、東京佼成ウインドオーケストラと人気ジャズピアニスト・松永貴志氏の共演など催しが盛りだくさん。公会堂以外の会場でも病院教会、喫茶店などで、一般公募が集まった人たちによる演奏会が行われるなど、期間中は荻窪のあちこちでクラシックを楽しむことができます。

「南北のバリアフリー化を目指し、誰もが快適に過ごせる街づくりを」というコンセプトを、音楽祭を通じて多くの人に知ってもらいたい。だから演奏の前には必ずこの趣旨を観客の皆さんに話すようにしています。そうすると皆、大きく頷いてくれる。音楽祭が定着してきたことを実感しますね」と中山さん。サポーター企業、個人の資金協力などボランティアのみで運営されるこの音楽祭。これからの課題は、チケットの半券もしくはミュージックバンドの

演奏するプラスアンサンブルチャット
(荻窪駅北口にて)

あるのに対し、荻窪駅は未だ地上駅のまま。このため荻窪は南北が分断され、特にベビーカーや高齢者などの行き来が困難な状況です。これを解消しようと、1996年に発足したのが「21世紀の荻窪を考える会」。駅の重層化というハード面の整備について提言を重ねましたが、大規模な工事を要するため相当の年月がかかる、それならば、まずはソフト事業として、この活動を住民に訴える街づくりイベントをしていこう、と始めたのがこの音楽祭なのだそうです。

な流れ。昨年6月に改築された公会堂は音楽祭でもメイン会場として使われ、今回も、東京佼成ウインドオーケストラと人気ジャズピアニスト・松永貴志氏の共演など催しが盛りだくさん。公会堂以外の会場でも病院教会、喫茶店などで、一般公募が集まった人たちによる演奏会が行われるなど、期間中は荻窪のあちこちでクラシックを楽しむことができます。

「南北のバリアフリー化を目指し、誰もが快適に過ごせる街づくりを」というコンセプトを、音楽祭を通じて多くの人に知ってもらいたい。だから演奏の前には必ずこの趣旨を観客の皆さんに話すようにしています。そうすると皆、大きく頷いてくれる。音楽祭が定着してきたことを実感しますね」と中山さん。サポーター企業、個人の資金協力などボランティアのみで運営されるこの音楽祭。これからの課題は、チケットの半券もしくはミュージックバンドの

特集
杉並
荻窪
ブロック

荻窪ブロックとは、本天沼、天沼、荻窪、南荻窪、上荻の各町です。ここでは、荻窪ブロックで活躍する人たち、催し物などを紹介します。

荻窪の由来は、奈良時代の和銅元年(708年)にさかのぼります。観音様の像を背負ってこの地を通ると、不思議にもその像が急に重くなり、歩くことができなくなった修行僧が「この観音像はこの地に縁がある」と思い、付近一帯に自生していたオギを刈り取って草堂を作り観音様を安置し、荻堂(荻寺)と名付けました。この荻堂が、現在の光明院(上荻2の1の3)です。また、この周辺は窪地だったことから、荻と合わせて「荻窪」と言われるようになったようです。現在の荻窪は、駅前にルミネ、タウンセブンなどが並び、近年では、昨年6月に改築された杉並公会堂を中心に、クラシックの街として知られています。

◆ 現在タウンセブンビルのある場所はずもとと闇市として栄えていました。戦後間もない1946年、同地は「荻窪新興商店街新興マーケット」として発足、荻窪地区の住民の消費の中心地として長く親しまれてきました。同商店街は、1店舗3坪という区画で150店がひしめきあっていたということです。

◆ しかし70年代半ばに入ると、店舗の老朽化や木造ゆえに火災が頻発する等の問題を抱えるようになりまし た。そんな中で浮上したのが、共同で店舗ビルを建て商店街の各店舗が入居する構想です。地権者が中心となって調整を行い、移転計画には全加盟店舗が同意したということです。

◆ こうして1981年、タウンセブンビルが完成。移転工事は2期に分けて行われ、隣接していた西友荻窪店もドッキングされました。こ

うして新興マーケットはショッピンゲンター「タウンセブン商店街」として新しく生まれ変わったのです。◆ 店舗フロアーは地下1階から地上7階まで、および屋上階となっており、100店近い専門店と西友荻窪店が入店しております。また駅前の駐輪場不足の問題の解消も兼ね、2002年には1階部分に有料駐輪場も完成しました。

◆ 同じく駅前に立地するルミネ荻窪店とも通路で繋がっており、名実ともに荻窪の顔として今日に至っています。

東京商工会議所入会のご案内
～会員として東京商工会議所にご加入いただくと、様々なメリットがございます！～

■ 経営のご相談
専門家が無料でご相談に応じます。

★ 法律相談・税務相談…経営上、お困りの方はお気軽にご相談ください。弁護士・税理士がお答えいたします。

★ エキスパートバンク…小規模事業者の皆さまからのご要望に応じて、東京商工会議所に登録されたエキスパート(専門家を直接事業所に派遣し、具体的・実践的なアドバイスによって問題の解決に役立てていただくものです。

政策要望実現活動
経営環境の改善と活力のある経済社会の実現に向けて会員企業の皆さまの声を政治・行政に反映させます。

地域振興活動
産業振興・地域活性化に向けて会員企業の皆さまと地域社会の取り組みを推進します。

お問い合わせ：東京商工会議所杉並支部 03-3220-1211

杉並支部 今後の事業予定

新春賀詞交歓会
2008年1月21日(月) 16:00～
吉祥寺第一ホテル
(武蔵野市吉祥寺本町 2-4-14)
講演：「笑顔の日本語～ユーモアコミュニケーション～」
三遊亭楽太郎 師匠
参加費：10,000円(税込み)
詳細はお問合せください。

特別講演会
(杉並法人会・荻窪法人会との共催)
「砂漠の戦争
～イラクを駆け抜けた友・奥克彦へ～」
2008年2月20日(水) 14:00～15:30
杉並区立産業商工会館(阿佐谷南 3-2-19)
講師：外交評論家 岡本行夫氏
外務省退官後、政府要職を歴任。現在は講演・執筆を中心に幅広く活動中。
参加費：無料 詳細はお問合せください。

経営支援活動
経営の改善と新たな成長に向けて取り組む企業の挑戦を力強くバックアップします。

くりを」というコンセプトを、音楽祭を通じて多くの人に知ってもらいたい。だから演奏の前には必ずこの趣旨を観客の皆さんに話すようにしています。そうすると皆、大きく頷いてくれる。音楽祭が定着してきたことを実感しますね」と中山さん。サポーター企業、個人の資金協力などボランティアのみで運営されるこの音楽祭。これからの課題は、チケットの半券もしくはミュージックバンドの

持参で特典が付くといった、地元商店街との連携。「今後はこういう点に力を入れていきたいですね。ハイレベルな演奏と楽しい企画。そこに“魂”を入れ、街に浸透させるのが僕たちの仕事です」。クラシックの美しい調べが広がり、誰もが快適に暮らせる街へ。音楽祭を地道に続けることで、この願いは必ずや実を結ぶことでしょう。

地歴散策
～荻窪タウンセブンの今と昔～

◆ 現在タウンセブンビルのある場所はずもとと闇市として栄えていました。戦後間もない1946年、同地は「荻窪新興商店街新興マーケット」として発足、荻窪地区の住民の消費の中心地として長く親しまれてきました。同商店街は、1店舗3坪という区画で150店がひしめきあっていたということです。

◆ しかし70年代半ばに入ると、店舗の老朽化や木造ゆえに火災が頻発する等の問題を抱えるようになりまし た。そんな中で浮上したのが、共同で店舗ビルを建て商店街の各店舗が入居する構想です。地権者が中心となって調整を行い、移転計画には全加盟店舗が同意したということです。

◆ こうして1981年、タウンセブンビルが完成。移転工事は2期に分けて行われ、隣接していた西友荻窪店もドッキングされました。こ

うして新興マーケットはショッピンゲンター「タウンセブン商店街」として新しく生まれ変わったのです。◆ 店舗フロアーは地下1階から地上7階まで、および屋上階となっており、100店近い専門店と西友荻窪店が入店しております。また駅前の駐輪場不足の問題の解消も兼ね、2002年には1階部分に有料駐輪場も完成しました。

◆ 同じく駅前に立地するルミネ荻窪店とも通路で繋がっており、名実ともに荻窪の顔として今日に至っています。